

グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 画材から^{たど}辿る画家の歩み

02 美幌オリジナル魚道

Vol.320

2024/02/01



横森政明《冬風景 報徳高台ヨリ》(1950)

Photo 今月の1枚

美幌町の画家 ^{よこもりまさあき}横森政明さんが、二十代の頃にベニヤ板に描いた油彩画です。ご本人は当時を「試行錯誤の連続で、教われば一日で分かることを半年たってもまだ分からなかった」と回顧しています（横森政明著「時雨の音」）。しかし、寒空の下を並んで歩く二人の人物が描かれた本作は、粗削りでありながら、味わい深い作品です。（早田真莉子）



01 Green Column グリーンコラム

画材から辿る 画家の歩み

写真・文／早田真莉子

令和5年度も、美幌博物館にはたくさんの美術品が寄贈されました。そのなかには、絵画だけでなく、作家が愛用していた画材道具や画集などもあります。たとえば、美幌町を代表する画家 よこもりまさあき 横森政明さんのご家族からは、彼が活動の初期である1947（昭和22）年頃に自作したパレットやイーゼルなどを、使用されていたままの状態でお譲りいただきました。横森さんが絵を描き始めたばかりの頃、美幌町周辺では画材を入手することが難しく、身近に絵について教えてくれる人もいなかったため、油彩道具の一式を見よう見まねで自作したそうです。これらの手作りの道具からは、「絵を描きたい」という一心だった、若き画家の熱い想いが伝わってきます。

また、愛用の絵具やパステルなどからは、画家がどのような画材を好んで

使用していたのかを知ることができます。前任の久保田学芸員が、グリーンレター Vol. 280 の「白の表現」というコラムで、横森さんが1964（昭和39）年に制作した《馬と人》で使用している白絵具は、その特徴から「ジンクホホワイト」ではないか、と考察していました。彼女は目視で絵の具の種類を推測したと思われませんが、その後、私が寄贈品の選定のために伺った横森さんの自宅アトリエには、「ジンクホホワイト」のチューブ入り絵の具が残されていました。このように、実際に使用されていた道具などを調査することで、作家の画業をより正確に辿ることができます。

今後は、こうした画材道具や関連資料に焦点を当てた展示も展開し、多角的な視点から美術の魅力について発信していこうと考えています。

美幌オリジナル 魚道

写真・文／町田善康



現在、美幌町内の川では、魚の遡上そじょうを助けるために、北海道が魚道整備を行っています。従来、行政が整備する魚道は、コンクリートで造られることが多く、コンクリート製の魚道では、水流が単調になり、遡上できる魚が限られていました。そこで、今回、町内で造る魚道には、自然石を使用することになりました。自然石は、型枠で造られたコンクリートに比べ、凹凸があり、形もさまざまです。だから、水の流れにも変化が生まれ、大小さまざまな魚が遡上しやすくなります。ただし、石の置き方ひとつで、水流が悪くなり、魚の遡上を妨げることがあるので注意が必要です。

そこで、普段から川へ行く私も工事に参加し、業者の方と一緒に石の配置を検討しました。私は、魚道の工事に立ち会うのは、初めてでしたが、3つのとても良い経験をさせていただきま

した。

まず、自然石の移動です。ひとつの石の重さは、約1トン。クレーンで吊り上げて、所定の場所に置かれます。最後の微調整は、金テコを使って人の手で行われ、重たい石を作業員の方が巧みに動かす様子は、まさに職人技でした。

次に、普段は水が流れている魚道の中を見ること。工事に立ち会うことで、水がない魚道を見る機会を得ました。

そして最後に、工事に関わる全ての方々が、寒い中での作業でも「魚のためだよね」と言ってくださること。このことは、最も嬉しい経験でした。

Exhibition 展示

企画展「冬季作品展」

2月3日(土)～3月3日(日)

ロビー展「ひなまつりとひな人形」

2月10日(土)～3月3日(日)

Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

博物館講座(自然編)「スノーシューで樹木観察」

2/10(土) 9:30-12:00

美幌博物館、美幌みどりの村森林公園

講師/城坂結実(美幌博物館)

対象/中学生以上(小学生以下は保護者同伴)

申込み/美幌博物館へ電話申込み(～2/7)。定員12名。

プチ工房「偏光万華鏡」

2/16(金)、17(土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館1階 講座室・400円

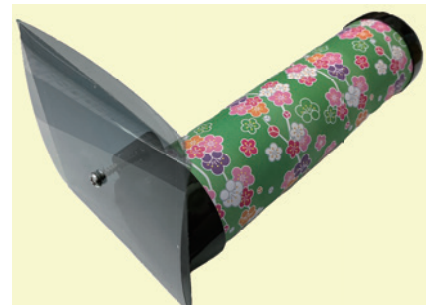
講師/鬼丸和幸(美幌博物館)

対象/どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

申込み/申込み不要

送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどのご希望がございましたら、お手数ですが美幌博物館までご連絡ください。



Tweet つぶやき

2015(平成27)年から始まった魚道づくり。2024(令和6)年には、魚の移動を妨げていた10カ所の段差がすべて魚道になります。この10カ所の魚道によって3つの川が再生し、たくさんの魚たちが帰ってくるはず。来シーズン、魚が蘇った川を見に行くのが、今から楽しみです。(町田善康)



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】城坂結実

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

